

第4回 JBG チャレンジカップ 実施要項

1. 競技日程

令和2年3月21日(土)、22日(日)

2. 競技場所

馬術苑 中島トニアシュタール

〒311-3114 茨城県東茨城郡茨城町大戸 738

3. 競技種目

3月21日(土)

(1) 部班馬場馬術競技(速歩班)、(駈歩班)

3月22日(日)

(2) 小障害飛越競技(60cm)、(70cm)

4. 出場資格

(1) 部班馬場馬術競技においては、日本社会人団体馬術連盟 騎乗者資格Cグレード以下の保有者であること。障害馬術競技においては、日本社会人団体馬術連盟 騎乗者資格Bグレード以下の保有者であり、各団体の責任において出場して問題無いレベルであると認めた部員。

(2) 全日本実業団障害馬術大会および全日本社会人馬術選手権大会へ過去3年以内の出場経験が無く、将来的に出場する目標を持っていること。

(3) 馬匹の馬装と手入れが問題なくできること。

(4) 何らかの傷害保険に加入していること。

(5) 各班それぞれ1回ずつのエントリーを認める。

5. 競技方法

(1) 部班馬場馬術競技

(ア) 競技方法

社馬連グレード審査の部班採点表を用い、「騎手の姿勢、騎手の平衡、柔軟性、扶助操作、総合観察」の項目を2～3名の審判員により、10段階評価(最高点50点)で採点する。

(イ) 順位の決定

1. 合計得点の高い者を上位とする。

2. 合計得点と同じ場合は全審判員の総合観察点の得点の高い者を上位とする。

3. 2で決まらない場合は、主審の得点の高い者を上位とする。
4. 3で決まらない場合は抽選とする。

(2) 障害馬術競技

(ア) 競技方法

競技規定は、国際馬術連盟障害飛越競技会規程第 25 版及び日本馬術連盟競技会規程第 26 版、国民体育大会馬術競技規程(第 69 回) (失権者の減点算出法)を採用する。3 反抗失権とし、基準タイムの設定など一部ローカルルールを採用する。使用予定馬が故障などにより使用不能となった場合の再走行は行わない。

1. 主催者が事前に割り当てた馬匹に騎乗してコースを走行し、その成績によって勝敗を決する。
2. コースは、以下の構成とする
60cm クラスは高さ 60cm までの単一の垂直障害で構成される。
70cm クラスは高さ 70cm までの単一障害、もしくは幅 80cm までのオクサー障害で構成される。障害の個数は両クラスとも 8 個～10 個とする。

(イ) 順位の決定方法

1. 減点の少ない者を上位とする。
2. 減点と同点の場合は、走行タイムの基準タイムとの差の絶対値の少ない者を上位とする。
3. 以上で決まらない場合は、同位とする。

6. 表彰

- (1) 部班馬場馬術競技、障害馬術競技の各班それぞれ、上位 3 名を表彰する。

7. その他

- (1) 参加者・馬取扱者・観覧者の事故疾病について、主催者は応急処置をするが、その責は負わない。
- (2) 出場者数及び馬匹、その他の理由により、やむを得ず要綱及び日程等の一部を変更して実施する場合もある。競技の詳細等については、当日の打ち合わせにおいて説明するので、注意すること。
- (3) 障害馬術競技においては、準備運動は 3 分 2 飛越以内とする。クロス障害の飛越は回数に含めない
- (4) 障害馬術競技において、選手の準備運動場における飛越回数オーバーは失権、逆標旗飛越については都度罰金 3 万円を課す。
- (5) 部班馬場馬術競技、障害馬術競技とも、騎乗する際には必ず 3 点式の防護帽を着用すること。
- (6) 拍車は 2.5cm 以内の丸又は棒拍とし馬匹提供団体および審判長の指示に従うこと。

- (7) 部班競技における服装については、正装でなくてもよいが乗馬にふさわしい格好とする。なお、安全のためエアバック式のプロテクター着用を推奨する。